

市議会議員

おのざわ康弘の

会派活動報告

ひげ通信



2019

57~59

発行日 19-02(やまぶき会 小野澤康弘)

おのざわ康弘ホームページ
Tel.049(232)5789 Tel.049(231)4850 <http://onozawayasuhiro.com/>

市政報告及び6月、9月、12月市議会報告

2019年という新たな年を迎え、皆様にはご健勝のことと存じます。小野澤康弘も2018年4月6日より川越市議会の議長を務めさせていただきました。現在に至っておりますが、市民の皆様や市議会が構成されている各議員の皆様にもご協力いただきながら議会運営を進めているところでございます。改めてご理解とご協力に感謝を申し上げます。

さて私は現在議長という立場でありますので、議場での議案質疑や一般質問等又、常任委員会についても委員会の活動に対しても行っていませんので、従来私の質問内容を含めた「ひげ通信」については残念ながら読んでいただくことができませんので、6月議会・9月議会・12月議会と市議会の報告及び市政に対するの報告をさせていただきます。なお市長提出議案は会派としては全て賛成し、原案可決されました。さて、平成の元号がもうすぐ変わります。平成元年より平成31年、30年にわたり世界的にも様々な出来事が起こり大転換期であったといえます。昭和天皇が崩御され平成の時代が幕を開け、中国では

天安門事件が起こりその年の11月にはドイツでベルリンの壁が崩壊しました。そのことを受けて米国のブッシュ大統領とソ連のゴルバチョフ書記長によるマルタ会談が行われ米ソ冷戦の終結が宣言されました。



一方日本では、不動産バブルがピークに達し平成元年12月には日経平均株価が38,957円の高値を記録しましたが、その数年後にはバブルが崩壊し100兆円規模の不良債権が発生。更に「失われた20年」に入っていく、経済は長期低迷が続く深刻なデフレ状態となりました。又、一般社会的にみると合併による自治体数の減少・その要因とし

での最重要課題としての少子高齢化の進展による人口減少社会の到来、大規模自然災害の頻発とその対応などが平成に入り顕在化し、社会に突き付けられた課題も重大であります。又、文化資源や自然への注目と活用と科学技術の急速な進展による技術革新や社会変革により大きく活性化された時代でもあります。特にスマートフォンなどの急激な発達によりIT化による情報量には特に目を見張るものがあります。

さて私も平成15年の4月の川越市議会議員統一地方選挙により当選させて頂き、連続4期目として現在議員活動を行わせていただいております。平成の半分を市議会と共に歩んで参りました。私が議員となつた時は議員定数も40名でしたが議会改革により議員定数は現在では36名と推移しており、議会も様変わり致しました。又、市政についても景気低迷といいますが大型事業の連続や観光客数の増大により大きく様変わりした平成であったと思えます。新しい時代になつても、私も市民の負託にこたえ頑張りたいと思えます。

行政の情報は市民の共有財産である

議会報告

私から見た昨年6月・9月・

12月議会を抜粋して報告いたします。詳細については、すでに議会だよりにて発刊しておりますので、そちらの方で内容のご確認をよろしく願います。

1. 平成30年6月議会

今回の6月議会では19議案提出され、通常の議会より比較的提出議案が少ないように感じられました。全議案が原案可決となりました。内、1議案については賛否が分かれました。

又、当所市長より提出された

議案63号「川越市債権管理条例」を撤回承認した上で、議案76号として「川越市債権管理条例」が提出されましたが継続審査となりました。又、議員提出議案として「手話言語条例」が

全会一致で可決されました。制定の主旨としては、手話が言語であることを認識し、手話の普及に努め、ろう者とうる者以外の者が共に暮らしやすいまちにすることを、川越市手話言語条例を制定しようとするものです。

2. 平成30年9月議会

9月議会では31議案がすべて原案可決となりましたが、内7議案に対しては賛否が分かれました。

9月議会は主に平成29年度一般会計、特別会計、歳入歳出決算認定の質疑も多く、特に単年度収支が前年度の赤字から黒字に転じた理由をはじめ、財政調整基金の今後の見通し、市民から多くの要望が出されている生活道路整備問題、更には、将来に対する財政運営に対する市長の見解を求める質疑も多く、長期的な財政問題に集中しました。

3. 平成30年12月議会

平成30年最後の議会となりました。提出された38議案すべて原案可決となりましたが、内9議案については賛否が分かれました。

同意案件として、「教育委員会委員に梶川牧子氏へ任命の同意」「監査委員に大泉一夫氏への任命の同意」「農業委員会委員に矢部 操氏へ任命の同意」。決議として「川越市議会のハラメント根絶に関する決議」などが全会一致で議決されました。

川越市の財政状況と

市内の経済状況について

1. 市の歳入歳出総額と市税(表1)

①ウエスタ川越整備事業等に伴い平成26年度歳入歳出総額は特に伸張していますが、平成25年度から平成29年度までの歳入歳出総額も増加しています。

②歳入に占める市税収入は、おおむね50%で堅調に推移しています。

市の財政構造(表2)

①「経常収支比率」は財政構造の弾力性をみる指標で、市税、普通交付税等の「経常一般財源総額」に対し、人件費、扶助費、公債費、物件費等の経常経費に充当された「経常経費充当一般財源」が占める割合を表しています。

②「経常一般財源総額」と「経常経費充当一般財源」は共に増加傾向です。

③平成29年度は「経常経費充当一般財源」が約20億円増加し、経常収支比率が97.0%に上昇しました。大規模建設事業による公債費の増(+7.4億円)、施設管理経費などの物件費の増(+5.2億円)、繰出金等の増(+3.9億円)等が要因です。

【歳入構造と財政指標からみた川越市の姿】

・歳入総額に占める市税の割合5割と安定しており、自主財源比率も6割を占め中核市の中でも高い水準にあることから、自立性の高い歳入構造であるといえます。

一方、大規模建設事業を実施している影響で公債費の増加や、物件費の増加が見込まれていることから、財政構造の弾力性を確保し、持続可能な財政運営を実現するには、歳入の確保や事務事業の見直しを通じた歳入の削減に取り組みする必要があります。



表2



表1

主な施策について

川越市の議会改革

・現在市議会では、議会本会議において、質疑等についてはインターネット中継、並びにケーブルテレビでの録画放映を行っています。

・又、一般質問等については質問者と答弁者(市側)とが対面による方式を取っております。このところ議員さんによっては資料を作成し、資料データに基づき質問される方も増えてきました。私も以前より資料や模型等を使用し質問を行った事がありますが、できれば大型モニターが議場に設置できると視聴者の方にも分かりやすくなるので、今後も要望等を行っていきたいと思います。

議長の職務とは

現在、私は議長の職務にありま
す。そこで議長の職務とはどのよ
うなことが改めて記載させて頂きま
す。

○議長の秩序保持権に服する事

法第104条 普通地方公共団体の議会の議長は、議場の秩序を保持し、議事を整理し、議会の事務を統理し、議会を代表する。

1) 秩序保持権の及ぶ「時」は、議会の会議中、すなわち本会議の開会

中に限られ、「場所」は議場内に限定される。

法第129条 普通地方公共団体の議会の会議中、この法律又は議会規則に違反し、その他議場の秩序を乱す議員があるときは、議長はこれを制止し、又は発言を取り消させ、その命令に従わないときは、その日の会議が終わるまで発言を禁止し、又は議場の外に退去させることが出来る。

2 議長は、議場が騒然として整理することが困難であると認めるときは、その日の会議を閉じ、又は中止することが出来る。

※平成30年10月29日ハラスメントに関する研修会レジュメより抜粋
講師元全国都道府県議長会事務局次長

○ガバナンスの強化

管理体制、内部統制の強化
組織の在り方の見直し
←業務効率化や不正防止を図る
※健全でクリーンなイメージ
ガバナンスが効く↓統制が取れている
コンプライアンス↓法令順守
ガバナンスは体制や仕組みを指す言葉

平成30年川越市入込観光客数について

●入込観光客数：734万2千人
(前年662万8千人 10.8%増)過去最高
●外国人観光客数27万9千人
(前年19万7千人 41.6%増)過去最高
【主な増加の理由】
・喜多院初詣客の増加…
30万人↓42万人
・川越氷川神社縁結び風鈴の増加…
35万人↓50万人
・一番街周辺の観光客数の増加…
時の鐘(82万9千人↓96万2千人)
菓子屋横丁(58万1千人↓63万人)
川越まつりが好天のもと開催…
73万人↓96万6千人

川越市デマンド型交通

新規カウント調査開始…
川越氷川神社…8万9千人
(9月〜計測開始)



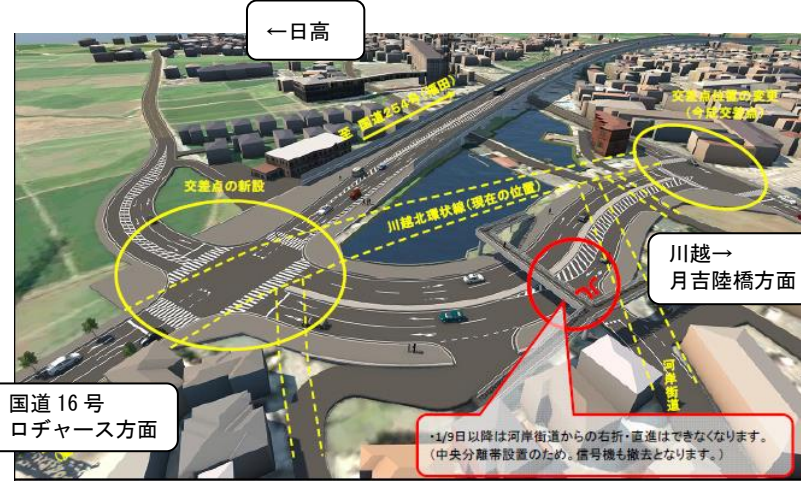
デマンド型交通試乗会
2月10日

平成31年2月10日、名細市民センター試乗会において、乗車申込みの説明を受け2月18日からの運行前の試乗会を行いました。

※私も試乗させて頂きました。今後の運行利用において課題も見えてくると思いますが、地域の足として皆さんで利用しましょう。

一般県道川越北環状線

平成31年3月24日(日) 15時
開通予定



国道16号
ロチャース方面

議員活動より

川越喜多院周辺が変わろうとしています！

私は平成17年より喜多院周辺のまちづくりによる活性化の議会質問から始まり、その後は地域における歴史的風致の維持及び向上に関する法律(通称、歴史まちづくり法)について私の生まれた小仙波町、西小仙波町、久保町周辺の方々と勉強会を通じて喜多院周辺の路の石畳(歴みち)松平大和守家廟所について、また歴史まちづくり法の適用範囲についてと喜多院周辺の整備に関わる事について取り組んで来ました。

おかげさまで平成23年にはこの法律に基づく「川越市歴史的風致維持計画」が策定され喜多院周辺の整備方針として、道路としては(仮)喜多院門前通り線(仮)喜多院外堀通り線や高質空間形成施設などが盛り込まれ現在に至ってきました。

この事については歴史的地区環境整備街路事業実現に向けて、平成22年小仙波1丁目自治会、西小仙波町1丁目自治会からの要望に対して私も応援させて頂きました。その成果として平成28年3月に歴史に合わせ、電柱も地中化さ

れ美装舗装として石畳のようなメジの入った道路が喜多院門前通りとして整備されました。一方もうひとつの喜多院外堀通り線についても平成30年予算の計上により道路美装化に向けた現地測量、路線測量、平面図、道路の幅や高さの測量、地質の調査、デザイン並びに工法の検討を行って頂き、市としては平成31年度に整備を行いたいと考えております。

平成22年の同地区の要望を受けてから時間が経過いたしました。私も喜多院周辺のまちづくりについて要望を達成し、応援させていただいた甲斐があります。

※現在では小仙波町、西小仙波町の方々と行政とで、都市景観形成地域の指定に向けてワークショップによる勉強会等を行い、市側としては平成31年度10月には指定を行いたい意向です。



今後整備予定される喜多院外堀通り線



平成31年成人式
1月13日



商工会議所新年名刺交歓会
1月9日



喜多院門前通り線
平成28年完成

プロフィール

昭和29年3月13日生

現職

川越市議会議員 4期
第84代川越市議会議長

議会運営委員会 委員長(歴任)
文化教育常任委員会 委員長(歴任)
人口問題と社会現象特別委員会 委員長(歴任)

防災・減災対策特別委員会 委員長(歴任)

第78代川越市議会議長(歴任)

最終学歴

東洋大学大学院工学研究科建築学専攻
博士前期課程修了(修士)

役職

東洋大学校友会 埼玉県西部支部 監事
県立川越工業高等学校同窓会 理事
川越市立川越第一中学校同窓会 理事
児童養護施設(社)埼玉育児院後援会 理事
上戸小学校区スポーツ振興連絡協議会顧問
川越市マレットゴルフ連盟 顧問
川越ボラリスミニバスケットボールクラブコーチ
川越地区ミニバスケットボール連盟
相談役
(社)川越青年会議所副理事長 歴任
川越市立上戸小学校PTA会長 歴任
川越市立鯨井中学校PTA会長 歴任

2019年1月現在



やすひろ
おのざわ康弘